

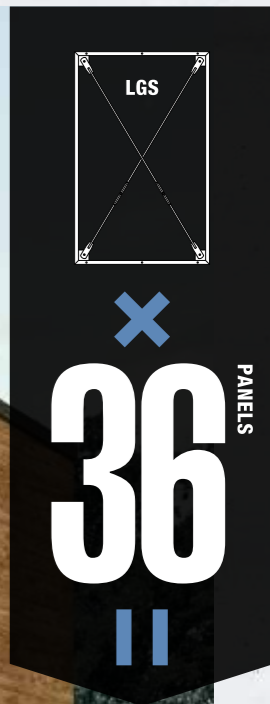
**ルーフデッキの実際例
 ワイルドビーチ木更津**

東京湾に向かって開かれたルーフデッキの爽快感を体験できる場所が、キャンプ & BBQ 施設「ワイルドビーチ木更津」です。ナチュラル感のある木製の外壁と、露出した鉄骨の素材感のマッチングは絶妙なカッコよさなのです。LGSパネルのデイトナハウスを実際に見ることができ、一度足を運んでみてください。



WILD BEACH TEL070-3669-8480 wildbeach.jp

ジュラルミン・タラップは可動式。建物同様に軽量鉄骨のパウダーコーティングで製作しています。このタラップの連続があることで、この住宅の楽しみ方が随分とも増えるのです。



キッチンカウンターがデッキテラスのテーブルまで連続する快楽。天気の良い夕方は、毎日がキャンプ気分の食事が楽しめますよ。季節感を感じ、風を感じ、空気の香りを感じながらの日常生活は、縁側が大好きだった日本人には懐かしい感覚のはず。もちろんその真下には、デイトナ読者にはマストなガレージも完備。1Fと2Fの双方が至極の遊び空間となっているのが、この家の最大の特徴なのです。



FLOOR PLAN

ガレージ空間を充実させ、リビング空間を必要にして十分な広さに限定。むしろルーフデッキをリビングの一部として日常的に使うことをテーマとしています。1階には寝室とお風呂、トイレといった生活に必要な要素に加えて趣味の空間も設定。価格は坪あたり概ね70万円～を設定しています。



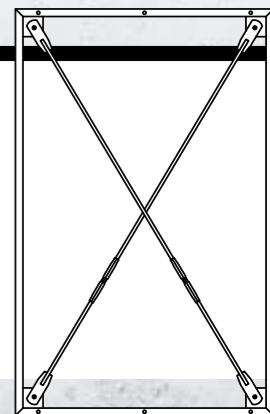
Theme
**縁側とタラップのある家
 風に吹かれて暮らす“自由な空間”**

今の住宅では見なくなってしまった縁側というスペース。
 今回は自然と暮らしの結節点としての素晴らしい機能をもっていた、
 そんな空間を現代的に復活させてみました。

一昔前の日本の家屋には、縁側と呼ばれる半分外部の空間が当たり前のようにはありません。板の床に腰かけ、足を庭に放り出して風に吹かれる。そんな風景もいつしか見なくなってしまうかもしれません。実はそれは理由があるからです。それは建築の法律。燃える材料を外部に露出させてはいけない。という条項のせいで、新築される家からは縁側を作ることが出来なくなりました。何故なら縁側の屋根を支える柱が木だったからです。本来は自然と対話をしたり、煙の出るものを焼いてみんなで食べたり、お月見や七夕を楽しんだり、良いことづくめの場所だったので、実に惜しいことをしたのです。そこで今回は、そんな縁側の素晴らしい魅力を蘇らせるべく、2階に現代的に表現した「ルーフデッキ」を提案しようと思います。

What's Daytona House?

デイトナハウスを構成するのは、LGSと呼ばれる軽量鉄骨のパネルで、厚さ3.2mm、幅12.5cm、厚み5cmの「Cチャンネル」と呼ばれる部材を、横幅180cm、縦270cmの長方形に溶接して製作しています。対角線のクロスしたパーツは、「ブレース」と呼ばれる筋違いで、力の伝達を受け持つ大切な役割を持っています。「柱」と「梁」と呼ばれる縦と横の部材を使って軸組を作っていく一般的な建築とは違って、デイトナハウスはこのLGSパネルを連結することで住宅、ガレージ、別荘、店舗、マンションなどの様々な建築を可能とする、全く新しいカタチのシステムなのです。パネルの枚数を数えるだけで、建築の広さ、およその予算がイメージできる分かります。パウダーコーティングが施されたその鉄の素材感が醸し出すハードボイルドな空間のテイストも持ち味です。



**INFORMATION
 LDKinc.**

デイトナをはじめ、カーマガジンの長期連載、ムック本であるCAR&HOMEにて、常にクルマと住宅の関係について提案し続けてきた建築プロデュース会社LDK inc.建築設計はもちろんのこと、建築システムの開発や商品開発も行う。

代表: 玉田 敦士
 WEB: www.ldk.co.jp
 TEL: 03-6228-4933

DAYTONA HOUSE OFFICIAL HP
www.daytona-house.com

Text/Atsushi TAMADA CG/Shin MATSUMOTO Illustration/Minor BAN (QuhanCO.LTD)